

# Hypertime: An Inquiry into Time in itself

## ワークショップ：新しい実在論

現代フランス哲学、物理学の哲学、時空の形而上学、美学等、多岐に渡って精力的に活躍中の哲学者エリー・デューリングが、近年の様々な実在論的潮流（分析形而上学、プラグマティズム、思弁的実在論、新実在論 etc）を念頭におきつつ、気鋭の若手二人を相手に、時間論の観点から実在とは何かを問い直す。

4月29日(土)

@法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー25階B会議室

- 14:00-14:10 主催校挨拶：安孫子信（法政大学）；趣旨説明：岡嶋隆佑（慶應大学）  
14:10-15:10 講演：エリー・デューリング（パリ第10大学）  
15:25-15:55 特定質問1：千葉雅也（立命館大学）  
15:55-16:25 特定質問2：近藤和敬（鹿児島大学）  
16:25-17:00 質疑応答

### 登壇者紹介

**エリー・デューリング** (Elie During) 1972年生まれ。パリ第10大学准教授。著書に、『つなぎ間違い』 (*Faux raccords: la coexistence des images*, Actes Sud, 2010)、『未来は存在しない』 (Alain Bublex, Elie During, *Le Futur n'existe pas : rétrotypes*, Éditions B42, 2014)、近著に『漂う時間』 (*Temps flottants: introduction à la vie simultanée*, Bayard, forthcoming) 等がある。日本語で読める論文としては以下のものがある。「アンリ・ベルクソンからジル・ドゥルーズへの三つの手紙」 (小林卓也訳、『現代思想』、青土社、2008年12月、163-175頁)、「プロトタイプ：芸術作品の新たな身分」 (武田宙也訳、『現代思想』、2015年1月、177-199頁)「レトロ未来」 (新村一宏訳、『表象・メディア研究』、第5号、表象・メディア論学会 (早稲田大学)、2015年、1-29頁)、「共存と時間の流れ」 (清塚明朗訳、『ベルクソン『物質と記憶』を解剖する』、書肆心水、2016年、270-305頁)、「われらベルクソン主義者 京都宣言」 (ポール＝アントワヌ・ミケルとの共著) (藤田尚志訳、『ベルクソン『物質と記憶』を解剖する』、337-366頁)

**千葉雅也** (ちば・まさや) 1978年生まれ。立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授。著書に『動きすぎてはいけない：ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』 (河出書房新社、2013年)、『別のしかたで：ツイッター哲学』 (河出書房新社、2014年)、『勉強の哲学：来るべきバカのために』 (文藝春秋、2017年)、訳書にカンタン・メイヤス『有限性の後で』 (人文書院、2016年) 等がある。

**近藤和敬** (こんどう・かずのり) 1979年生まれ。鹿児島大学准教授。著書に『構造と生成〈1〉カヴァイエス研究』 (月曜社、2011年)、『数学的経験の哲学 エピステモロジーの冒険』 (青土社、2013年)、共編書に『主体の論理・概念の倫理：二〇世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義』 (以文社、2017年)、訳書にジャン・カヴァイエス『構造と生成〈2〉論理学と学知の理論について』 (月曜者、2013年) などがある。

このワークショップは、平成29年度科学研究費補助金・基盤研究(B)「ベルクソン『物質と記憶』の総合的研究—国際協働を型とする西洋哲学研究の確立」 (課題番号：15H03154) により後援されています。  
※ 入場無料・予約不要。使用言語は英語。



URL: <http://matterandmemory.jimdo.com/>

連絡先：岡嶋隆佑 [okajimaryusuke@gmail.com](mailto:okajimaryusuke@gmail.com)